

永遠の真理

ETERNAL TRUTH

信仰による義認

2011年 4月

「自由にする神の律法」 「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (II)」 「ココナッツとキャロブの生チョコ風」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「信仰による義認」

4

朝のマナ

「自由にする神の律法」

10

神のみかたちを回復する

現代の真理

「黙示録18章の御使と1888年のメッセージ(III)」

41

The Good Way Series

力を得るための食事

「ココナッツとキャロブの生チョコ風」

46

お話コーナー

「平和な絵を描く」

48

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知市百石町 1-17-2 電話：0887-58-3263

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp

メール：support@4angels.jp

発行日 2011年3月31日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

イラスト：dreamstime.com p. 1, 2; Sermonview p.9

忠実な魂

世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。(患難から栄光へ上巻 3)

神の忠実な民は常に、彼らの財源を神のみ名をあがめるために用い、彼らの才能を神への奉仕に賢く用いた積極的な伝道者であった。(患難から栄光へ上巻 115)

神に献身している者はみな、光の通路となる。神は彼らを神の恵みの富を他人に伝える代理人とされる。(各時代の希望上巻 162)

福音の任命は、キリストの国の宣教大憲章である。弟子たちは人々のために熱心に働き、すべての人々に恵みの招待状を渡さなければならなかった。彼らは人々がやってくるまで待つのではなく、使命を携えて人々のところに行かなければならなかった。(各時代の希望上巻 22)

クリスチャンは、だれでもみな伝道者でなければならない。助けを必要としている人に同情といつくしみをもって奉仕し、無私の熱心さをもって、苦しむ人々のわづらいを軽くするように努力しなければならない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 74,75)

弟子たちに与えられた任務は、わたしたちも与えられている。今日、当時と同様に、十字架につけられ、よみがえられた救い主が、世にいて神もなく望みもない人々の前に掲げられなければならない。……あらゆる国民、部族、国語、民族に、キリストを通しての許しの知らせが伝えられなければならない。無気力な命のない話し方ではなく、明確ではっきりとした揺り動かすような話し方で、伝えられるべきである。何百という人々が、自分の命のために逃げるための警告を待っている。世はクリスチャンのうちにキリスト教の力の証拠を見る必要がある。ほんのわずかな場所だけでなく、世界中に憐れみのメッセージが必要とされている。(福音宣伝者 29)

神とつながっているすべての人は、他の人々に光を与える。もし与える光のない人があるとすれば、光の源であられるお方と何のつながりも持っていないからである。(ヒストリカル・スケッチ 291)

信仰による義認 (I)

神が罪人を許し、彼の受けるべき刑罰をまぬかれさせ、あたかも彼が罪を犯さなかったかのように扱われるとき、このお方は神の恩寵のうちに彼を受け入れ、キリストの義の功績を通して彼を義認される。罪深い世の罪のために犠牲となられた神のいとしいひとり子を通してなされた贖罪を信じる信仰によってのみ、罪人は義認されることができる。だれ一人としてなんらかの自分自身のわざによって義認されることはできない。彼は、ただキリストの苦しみと死とよみがえりの徳によってのみ、罪の犯罪から、律法の有罪宣告から、不法の刑罰から救い出されることができる。信仰は義認を得るための唯一の条件であり、信仰は信じるだけでなく、信賴することが含まれている。

多くの人々はキリストを信じる名目的な信仰を持っているが、十字架につけられ、よみがえられた救い主の功績を自分のものとする、お方への命の依存については何も知らない。この名目的な信仰についてヤコブは「あなたは、神はただひとりであると信じているのか。それは結構である。悪霊どもでさえ、信じておののいている。ああ、愚かな人よ。行いを伴わない信仰のむなしいことを知りたいのか」と述べている(ヤコブ 2:19, 20)。多くの人々は、イエス・キリストを世の救い主として認めるが、同時に自分たちはこのお方から遠ざかっており、自分たちの罪を悔い改めず、自分の個人的な救い主としてイエスを受け入れない。彼らの信仰は単に思いと判断力が真理に同意するだけで、真理が魂を清め、品性を変えることができるように、心に持ち込まれることがない。「神はあらかじめ知っておられる者たちを、更に御子のかたちに似たものとしようとして、あらかじめ定めて下さった。それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった。そして、あらかじめ定めた者たちを更に召し、召した者たちを更に義とし、義とした者たちには、更に栄光を与えて下さったのである」(ローマ 8:29, 30)。召しと義認は一つではなく、同じものではない。召しとは、罪人をキリストに引き寄せることであり、それは聖霊が心に働きかける働きであって、罪を自覚させ、悔い改めへと招く。

多くの人々は、救いの働きにおける最初の一步を構成しているものについて

混乱している。悔い改めは、罪人がキリストの許へ来るために、自分自身でしなければならない働きだと思われている。彼らは罪人が神の恵みの祝福を得るために、自分自身でふさわしさを得なければならないと考えている。しかし、神に受け入れられるのは砕けた悔いた心だけであるから、悔い改めが許しに先立たなければならないのは事実であるが、罪人は自分で悔い改めをもたらすことはできないし、またキリストの許に来るために自らを備えることはできない。罪人が悔い改めないかぎり、許されることはできない。しかし、決定すべき問題は、悔い改めが罪人のわざなのか、キリストの賜物なのかということである。罪人はキリストの許へ来る前に、自分の罪に対する悲しみでいっぱいにならないといけないのであろうか。キリストへのごく最初の一步は、神の御霊の引き寄せる力を通して始まる。人がこの引き寄せる力に應えるとき、彼は、悔い改めることができるように、キリストへ向かって前進するのである。

罪人は迷子の羊として表されている。そして迷子の羊は、羊飼いやによって探し出され、囲いに連れ戻されるのでないかぎり、決して囲いに戻ってくることはない。自分自身で悔い改めることのできる人はだれもないし、また自分自身を義認の祝福にふさわしいものにすることもできない。主イエスは絶えず罪人の思いに印象づけ、世の罪を取り除く神の小羊であるご自分を眺めるよう彼を引きつけておられる。イエスが魂を引き寄せ、強め、そしてわたしたちを悔い改めの必要のない悔い改めの経験へと導いて下さるのでなければ、霊的な命へ向かって歩を進めることはできない。

大祭司とサドカイ人の前で、ペテロははっきりと、悔い改めは神の賜物であるという事実を提示した。彼はキリストのことについてこのように述べている。「そして、イスラエルを悔い改めさせてこれに罪のゆるしを与えるために、このイエスを導き手とし救主として、ご自身の右に上げられたのである」と言った（使徒行伝 5:31）。悔い改めは、許しや義認とまったく同様に神の賜物である。そしてそれはキリストによって魂に与えられるのでない限り、決して経験することができない。もしわたしたちがキリストに引き寄せられているなら、それはこのお方の力と徳を通してである。悔悟の恵みはこのお方を通してもたらされ、このお方から義認がもたらされる。

信仰の意味

パウロは、「しかし、信仰による義は、こう言っている、『あなたは心のう

ちで、だれが天に上るであろうかと言うな』。それは、キリストを引き降ろすことである。また、『だれが底知れぬ所に下るであろうかと言うな』。それは、キリストを死人の中から引き上げることである。では、なんと言っているか。『言葉はあなたの近くにある。あなたの口にあり、心にある』。この言葉とは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉である。すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる。なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである」と言っている（ローマ 10:6-10）。

救いにいたる信仰は、ときたまの信仰ではなく、単なる知性の同意でもない。それは心に根ざした信念であり、キリストを個人的な救い主としてとらえ、このお方がご自分によって神の許へ来るすべての者を最高にまで救うことがおできになると確信していることである。このお方は他の人々は救われるが、あなたをお救いにならないと信じるのは、本物の信仰ではない。そうではなく魂がキリストを救いの唯一の希望としてつかむとき、そのときこそ、本物の信仰が表される。この信仰はそれを持っている人がすべての愛情をキリストに置くように導く。彼の理解力は聖霊の支配下にあり、彼の品性は神に似た姿にかたどって形成される。彼の信仰は死んだ信仰ではなく、愛によって働く信仰であり、キリストの美しさをながめ、また神聖な品性へと同化するように導く。〔申命記 30:11-14 引用〕。「そしてあなたの神、主はあなたの心とあなたの子孫の心に割礼を施し、あなたをして、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主を愛させ、こうしてあなたに命を得させられるであろう」（申命記 30:6）。

心に割礼を施されるのは神である。働き全体は始めから終わりまで主のものである。滅びつつある罪人は次のように言うことができる。「わたしは失われた罪人です。しかしキリストは失われた者を探し救うために来て下さいました。このお方は『わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を悔い改めに招くためである』と言われます（マルコ 2:17 英語訳）。わたしは罪人です。そしてこのお方はわたしを救うために、カルバリーの十字架上で死なれました。わたしは一瞬も救われないままにいる必要はありません。このお方はわたしの義認のために死に、よみがえられました。そしてこのお方は今、わたしを救ってくださいます。わたしはこのお方が約束して下さった許しを受け入れれます。」

着せられた義

キリストはよみがえられた救い主である。なぜなら、このお方は死なれたが、ふたたびよみがえり、わたしたちのためにとりなしをしてくださるために、つねに生きておられるからである。わたしたちは心に信じて義とされ、口で告白して救われるのである。信仰によって義とされる人々は、キリストを告白する。「よくよくあなたがたに言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをつかわされたかたを信じる者は、永遠の命を受け、またさばかれることがなく、死から命に移っているのである」(ヨハネ 5:24)。悪によってしみがつき、汚れている罪人のためになされる偉大な働きは、義認の働きである。真理を語られるお方によって、彼は義人であると宣言される。主は信じる者にキリストの義を着せ、宇宙の前で彼を義なるものと宣言する。彼は自分の罪を、罪人の代表であり、身代わりであり、保証人であられるイエスに移す。キリストの上に、信じるすべての魂の不義がおかれる。「神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあつて神の義となるためなのである」(コリント第二 5:21)。

キリストは全世界の罪のために十分な償いをされた。そして信仰のうちに神の許へ来るすべての人は、「さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。」(ペテロ第一 2:24)。わたしたちの罪は償われ、捨て去られ、海の深みに投げ捨てられた。悔い改めと信仰とを通してわたしたちは罪を取り除き、わたしたちの義なる主を眺める。イエスは苦しまれた、すなわち不義なる者のために義なるお方が苦しまれた。

罪人は律法の有罪宣告の下にいるにもかかわらず、キリストは律法に捧げたとご自分の服従によって、悔い改めた魂のためにご自身の義の功績を要求なさる。キリストの義を得るために、罪人はその悔い改めが思いと精神と行動の根本的な変化をもたらすことを知る必要がある。変化の働きは心の中で始まり、その力は存在のすべての機能を通して表されなければならない。しかし、人はこのような悔い改めを作り出す能力はなく、それが経験できるのはただ高いところに上ったとき、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えられたキリストを通してのみである。

本当に悔い改めた者になりたいと願っているのはだれか。彼は何をしなければならぬであろうか。彼はありのまま、一刻の猶予もなくイエスの許へ行

かなければならない。彼はキリストのみ言葉が真理であることを信じなければならない。そして、約束を信じ、受けることができるように求めなければならない。真心からの願いが人に祈りを促すとき、彼の祈りはむなしくなることはない。主はご自分の言葉を果たしてくださり、神への悔い改めとわたしたちの主イエス・キリストへの信仰へと導く聖霊を与えてくださる。彼は祈り、見張り、自分の罪を捨て、神の戒めに従おうと努める活力によって自分の誠心を表す。彼は祈りに信仰を混ぜ、律法の規則を信じるだけでなく、従う。彼は問題について自らキリストの側にいるものとして宣言する。彼は心を神から引き離す傾向のある習慣や交わりをことごとく捨てる。

神の子となりたい者は、悔い改めと許しは、ほかならぬキリストの贖罪を通して得るものであるという真理を受け入れなければならない。このことを確信して、罪人は自分のためになされた働きと調和して努力しなければならない。そして倦むことのない嘆願をもって恵みのみ座に、神の回復する力が自分の魂のうちにもたらされるようにと請い願わなければならない。キリストは悔いた者しかお許しにならないが、このお方はお許しになる者を、まず悔い改めさせられる。備えは完全であって、とこしえのキリストの義はすべての信じる魂の勘定に記載される。高価なしみのない、天の織機で織られた衣は、悔い改め信じる罪人のために備えられている。だから、彼は次のように言うことができる、「わたしは主を大いに喜び、わが魂はわが神を楽しむ。主がわたしに救の衣を着せ、義の上衣をまとうせ……たからである」(イザヤ 61:10)。

信じる魂が罪から自由でい続けられるように、豊かな恵みが備えられてきた。なぜなら、全天がその尽きることのない資源と共にわたしたちの思いのままにだからである。わたしたちは救いの井戸から汲まなければならない。信じるすべての人にとってキリストは義のための律法の終りであられる。自分自身のうちでは、わたしたちは罪人である。しかし、キリストのうちにあって、わたしたちは義人である。キリストの着せられた義を通して、義人とされ、神はわたしたちを義なる者と宣告され、義なる者として取り扱われる。このお方はわたしたちをご自分のいとしい子としてご覧になる。キリストは罪の力に対して働かれ、罪があふれるところには、恵みがさらにゆたかにあふれるのである。「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる」(ローマ 5:1, 2)。

「彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもって見のがしておられたが、それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである」(ローマ 3:24-26)。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である」(エペソ 2:8)。〔ヨハネ 1:14-16 引用〕。

引用参考文献

62 章 信仰による義認 (I) 389-394

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



4月 「自由にする神の律法」

愛の祝福

「おのが道を全くして、主のおきてに歩む者はさいわいです。主のもろもろのあかしを守り心をつくして主を尋ね求め」(詩篇 119:1,2)

十誡はその心が愛に満たされ、無限の知恵があり、決して間違いを犯すことのない天の神から出ている。このお方は過ちを犯すにはあまりにも知恵に満ち、ご自分の要求に従う者に害を及ぼすにはあまりにも良いお方である。(わたしたちの高い召し 262)

多くの宗教教師たちは、キリストはご自分の死によって律法を廃された、それゆえに人はその要求から解放されている、と主張する。なかには、律法を重苦しいくびきであると言い、律法の束縛とは対照的に、福音の下において自由が享受できると主張する人々もいる。

しかし、預言者や使徒たちは、神の聖なる律法をそのようには見なさなかった。「わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます」(詩篇 119:45)。キリストの死後に書いた使徒ヤコブは、十誡を「尊い律法」「完全な自由の律法」と言っている(ヤコブ 2:8,1:25)。そして、十字架から、半世紀の後に、ヨハネは、「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の律法を行なう者」はさいわいであると言明している(黙示録 22:14 英語訳)。

キリストがその死によって天父の律法を廃したという主張には、なんの根拠もない。もしも律法を変えたり、廃止したりすることができるのであれば、人間を罪の刑罰から救うためにキリストが死なれる必要はなかった。キリストの死は、律法を廃止するどころか、それが不変のものだということを証明しているのである。神のみ子は、「律法を大いなるものとし、かつ光栄あるものとする」ために来られた(イザヤ書 42:21 英語訳)。「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思ってはならない。」「天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはな」と彼は言われた(マタイ 5:17,18)。また、ご自身について、「わがが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と宣言しておられる(詩篇 40:8)。

神の律法は、その性質そのものから考えても、不変のものである。それは、その制定者の意志と品性の啓示である。神は愛である。そして、神の律法は愛である。(各時代の大争闘下巻 193,194)

律法は魂を改心させる

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ（改心させ）、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。」（詩篇 19:7）

詩篇記者は「主のおきては完全であって」（詩篇 19:7）と言う。エホバの律法はその単純さ、すべてを含むこと、その完全さにおいてなんと素晴らしいものであろうか！それは非常に簡潔なので、わたしたちは一つ一つの教訓をたやすく記憶し、しかも神の御旨全体を表現するほど遠大で、外面的な行動だけでなく、心の思想と意図、願望と感情を認識することができる。人間の法律はこれを行うことができない。それらは外に現われた行動だけに対処できる。人は違反者でありながらその行為を人の目から隠すことはできるかもしれない。彼は犯罪者―盗人、殺人者、姦夫―かもしれないが、知らなければ法律は彼を有罪と宣告することはできない。神の律法は、魂にわき起こるが、意志ではなく機会がなかったために、外面的な行為にあらわれなかった嫉妬、妬み、憎しみ、深い恨み、復讐心、情欲、野望に注目する。そしてこれらの罪深い感情は「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれる」その日に考慮される（伝道の書 12:14）。（セレクトッド・メッセージ 1 巻 217）

人間は、律法がなければ、神の純潔と神聖さ、あるいは自分自身の罪と汚れについて、正しい考えを持つことができない。罪についての真の自覚もなく、悔い改めの必要も感じない。自分たちが神の律法の違反者であるという失われた状態を悟らず、キリストの贖罪の血の必要を自覚しないのである。心の根本的変化も生活の改変もなしに、救いの希望を受け入れる。（各時代の大争闘下巻 196）

神は、父祖、ダビデ、預言者、使徒の時代にそうであられたように、今日も罪から救うのに力強いお方である。神がご自分の民を彼ら自身の不法から救い出された聖なる歴史の中に記録された多くの事例により、今の時代のクリスチャンは、熱心に神の教えを受けるものとなり、裁きの厳密な調査に耐え得る品性を完成させるのに熱心になるべきである。（教会への証 4 巻 15）

わたしたちの眼を明らかにする

「主のさとしは正しくて、心を喜ばせ、主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする。」(詩篇 19:8)

あなたは神の律法を研究するようにと招かれている。神への愛と人への愛の原則から生じている十誡をとって、あなたがそれらの要求に調和しているかどうかを見なさい。もしあなたがそれらのどの一つも破っていないなら、あなたは願うことを求めることができ、それはかなえられるであろう。なぜならあなたは神の恩寵のうちにいるからである。自分が正しいかそうでないかをあなたが決定することのできる唯一の方法は、律法の光と神の御霊によって自分の心を探ることによってである。鏡を見るとあなたの外見に欠陥があるのが明らかになるように、律法の道德上の鏡はあなたの品性の不完全さ、あなたの心の真の状態を明らかにする。自由の完全な律法を研究し、天にふさわしくなりたいと願っている者は神の助けが必要であることに気づき、祈りの中でしばしば神の御前にいるのが見出される。

真理によって聖化されている者だけが、永遠の命の相続人として受け入れられる。神がご自分の子らに持たせようとなさる聖化は、人々が自分の神聖さを自慢し、「聖であって、正しく、かつ善なるものである」(ローマ 7:12) 神の律法を拒むように導く品性ではない。聖書の聖化は神のご要求への絶対的な従順である。キリストはだれをも罪の汚染の中で救うために死なれたのではない。このお方は「律法の要求(義)が」ご自分に従う者の内に「満たされる」ようにと(ローマ 8:4)、「おのれの民をそのもろもろの罪から救う」(マタイ 1:21) ために来られたのである。十字架上における神の御子の死は、エホバの教訓の不変的な特性を示している。そうであればわたしたちは一つ一つの違反や不従順のために、どれほど悲しむべきであろうか。尊い救い主はわたしたちの不法のゆえに傷つけられた。聖化を主張しながら律法の拘束力のある義務を認めることを拒む者の心の中に、神の戒めへの恨み(敵意)がある。律法に言及するや否や彼らの心に憎しみが起こる。彼らは律法が廃されていると信じていると公言する。しかしもし律法が廃されているなら、わたしたちがキリストの審判の座の前で判決を受ける基準は何であろうか。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 2 月 10 日)

最初の一步

「なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からわたしを解放したからである。律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様に罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。」(ローマ 8:2～4)

神の律法を守らなかったがゆえの神への悔い改めはクリスチャン生涯における最初の一步であるが、その一方わたしたちの主イエス・キリストへの信仰は、過去の罪の許しのためにこのお方の血の功績を求め、わたしたちを神性にあずかる者とする。「神の律法に従わず、否、従い得ない」肉の心は靈的にされ、キリストと共に「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と叫ぶ(ローマ 8:7, 詩篇 40:8)。

キリストを信じていると言う者が多くいるが、彼らは信じているのであろうか。彼らは神の律法を喜ぶ靈的な思い、キリストの思いを持っているのであろうか。彼らは神の子であると主張するが、神のみ働きをしない。わたしたちはこの問題においてどのような失敗をする余裕もない。なぜならわたしたちの永遠の利益がかかっているからである。正しい信仰は信心深い働きの中で明らかにされ、生活全体を神の律法に調和させる。……わたしたちは海図を探り、自分たちが義人のために敷かれた大路におり、謙遜な従順の道を歩いていることを魂に確信させるために奮起すべきではないだろうか。わたしたちは「足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい」と警告されている(ヘブル 12:13)。わたしたちは他の人々にとって模範であり、もしわたしたちが誤った進路を追い求め、他の人々を正しい道から離れるよう導くなら、わたしたちには説明責任がある。

わたしたちは真の信仰を持つことの重要性を見ることができる。なぜならそれはそのクリスチャンの生活と行動の原動力だからである。しかし感覚は信仰ではなく、感情も信仰ではない。わたしたちは自分の働き、思想、感情を、み言葉によってテストしなければならない。真の信仰は神のみ声によって深く印象づけられ、それに従って行動する。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1887年 11月 24日)

神の御言によって懲らしめを受け、教えられる

「主よ、あなたによって懲らされる人、あなたのおきてを教えられる人はさ
いはいです。あなたはその人を災の日からのがれさせ……られます。」(詩篇
94:12,13)

この大いなる贖罪の日に自分の罪を告白し、自分の不法を許していただく
にあたって、神のあわれみと愛を認めるのはわたしたちの義務である。主が
わたしたちをよこしまな道から救うために与えて下さる警告をこのお方に感謝
しよう。わたしたちの生活に変化を表すことによってこのお方の慈しみを証し
よう。主がご自分の道を歩んでいない者を警告しつつ譴責を送られた者が悔
い改め、へりくだりと悔悟の念をもって告白するなら、主はたしかに彼らを再
び恩寵のうちにお受け入れになる。もし彼らが神の戒めを守ることによってこ
のお方をあがめるなら、彼らはこのお方によって高められる。神は彼らに何
が真の名誉、力強さ、勝利を構成するのかをお教えになる。主のみ言葉を
軽蔑する者、すなわち悪を譴責し義を奨励する神の託宣を持っていながら、
自分自身の道を歩み続け、自己高揚の願いにふけて、自分たちに信頼して
いる人々を誤った道に導く人々は、神からまったく捨てられないとしても、自
分自身に疲れてしまう。

神はご自分の民の魂を救う希望をもって彼らを懲らしめられる。……自己
を厳密に吟味しよう。自分は他の人々と同じようにしているのであるから、道
から遠くはずれるはずはないと言って、あなたの普段着の中に自分を隠そうと
してはならない。もちろん、あなたは今日生きている多くの背教者がしている
ようにすることもできる。ある者は今ですらこの立場に踏み込もうとしている。
しかしその光景は喜ばしいものであろうか。もし他の人の経験をわたしたちの
前において、主の道に反した道をわたしたちが歩んで罰を受けるなら、わた
したちは自分以外のだれを責めることができよう。

ああ、神の民がこれらの事柄の重要性を深く認識することができると良い
のに! ああ、従順と聖潔の狭い道から離れるすべての者があるがまさにそれ
を見ることができるとよいのに! ああ、男女がかつてしたことがないほど主を
求めるならば良いのに! (世界総会冊子 1900 年 7 月 1 日)

真の繁栄への鍵

「悪しき者のはかりごとに進まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は主のおきてをよこび、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆栄える。」(詩篇 1:1～3)

人々に神の戒めを軽んじるように教えるものは、不従順の種をまき、不従順を刈り入れる。神の律法によって課せられている拘束を全部取り去るならば、人間の法律もまもなく無視されるであろう。神は不正な慣習、貪欲、虚偽、詐取を禁じておられるので、人々は自分たちが世俗的に繁栄する道の障害として、神の戒めをやすやすとふみにじる。しかし、これらの戒めを追い払った結果は、彼らの予期しなかったものとなるであろう。もし法律に拘束されないならば、違反を恐れる必要があろうか。財産はもはや安全ではなくなる。人々は力づくで隣人の持ち物を手に入れ、最も強い者が最も富める者になる。生命そのものが尊重されなくなる。結婚の誓約は、もはや家族を守る神聖なとりでとしての用をなさなくなる。力を持っている者が、もし望むなら、隣人の妻を腕づくで取るようになる。第五条は第四条とともに廃される。子供たちは、親の生命を取ることで自分の墮落した心の願いを達成できるならば、そうすることを恐れなくなる。文明社会は強奪者、暗殺者の大群と化し、平和、休息、幸福は地上から消滅してしまう。(各時代の争闘下巻 346,347)

すべての繁栄は神のご要求への服従にかかっている。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1880年5月20日)

十誡の「せよ」、「してはならない」とは、もしわたしたちが宇宙を統治している律法に従順を捧げるなら、わたしたちに保証された十の約束である。

二枚の石板の上の聖なる律法の中に神の指で刻まれていない道徳上の教訓は、聖書のどこにもない。……わたしたちの天父はつねに、わたしたちの命の第一として、その喜びと繁栄として、その光と能力として、そしてわたしたちのとしえの分として、心に大切にされるべきである。(神のむすこ娘たち 56)

神の律法に服することにある平安

「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまづかすことはできません。」(詩篇 119:165)

真理の率直さとはっきりとした証のゆえにたやすくつまづく者は、神の真理を傷つけ、二心のまま、熱くもなく冷たくもない者として、ついに神がそのみ口から彼らを吐き出されるまで教会にとって重荷となる。(原稿別ス 15 卷 329)

律法への服従はわたしたちの救いだけでなく、わたしたちと関わりのあるすべての人の幸福にとって必要不可欠である。……しかし有限な人間は、創造主ご自身が人間の必要に合わせてくださったこの聖なる公正な良い律法、自由の律法を、だれも負うことのできないくびき、奴隷のくびきとして人々に示す。しかし律法を耐え難いものと見なすのは罪人であり、その教訓の中に麗しさを見ることができないのは違反者である。なぜなら肉の思いは「神の律法に従わず、否、従い得ない」からである(ローマ 8:7)。

「律法によっては、罪の自覚が生じるのみである」(ローマ 3:20)。なぜなら「罪は不法」だからである(ヨハネ第一 3:4)。人に罪を悟らせるのは律法によってであり、彼らは救い主の必要に気づく前に、自分が神の怒りにさらされた罪人であると感じなければならない。サタンは、罪の嘆かわしい性質を人が低く評価するように絶えず働いている。そして神の律法を足の下に踏みじめる者は大欺瞞者の働きをしているのである。なぜなら彼らは、罪を明らかにし、違反者の良心にそれを悟らせる唯一の規則を拒んでいるからである。

罪深いにも関わらず、往々にして軽く見過ごされるが、実のところ、品性の土台でありテストであるこれらの秘かな目的にまで、神の律法は及ぶ。それは、もし罪人が自分の道徳上の品性について正しい知識を持ちたければ、見るべき鏡である。そして彼が義の大いなる標準によって自分自身が有罪と判決されたのを見るとき、彼の次の行動は自分の罪を悔い改め、キリストによる許しを求めることである。これをしないとき、多くの者は自分の欠点を示す鏡を壊そうとし、彼らの人生と品性における汚れを指摘する律法を無効にしようとする。(エレキッド・メッセージ 1 卷 218,219)

川のように平安

「どうか、あなたはわたしの戒めに聞き従うように。そうすれば、あなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようになり、」（イザヤ 48:18）

あなたはキリストのくびきを負うのであろうか。これをするならあなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようになる。（原稿リ-ス 21 巻 279）

禁じられた喜びと罪深い放縦に喜びを求めているあなた、来なさい。キリストから散らされているあなた、カルバリーの十字架を見上げなさい。あなたが賢くなる機会を得、命の泉と真の幸福を求める間、あなたのために苦しんでいる王なる犠牲を見つめなさい。あなたがこの世で会わなければならないささいな不便と少々の試練に文句を言い、つぶやくあなた、来て、あなたの信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げなさい。このお方は王座、最高指揮権を捨て、ご自身の神性を脇へおき、人性をまとわれた。このお方はわたしたちのために拒まれ軽蔑された。わたしたちがご自分の貧しさによって富む者となるために、このお方は貧しくなられた。キリストの苦しみを信仰の目で見つめているあなたは、自分の試練、悲哀の話をすることができるのであろうか。ご自分をののしっている者、ご自分を殺そうとしている者のためにキリストの青ざめた震える唇から出た「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」という祈りを覚えていながら、あなたは心の中に復讐を抱くことができるのであろうか（ルカ 23:34）。

自分の心の中に場所を求める自尊心と虚栄を抑え、悔い改めと信仰によってキリストとの親しく聖なる交わりの中に自分自身を連れて行くのは、わたしたちの前にある働きである。神の御子がわたしたちを墮落と罪の奴隷からご自身の右側にある座に引き上げるために甘受されたへりくだりの深さに、わたしたちはしり込みしてはならない。わたしたちは自己を否定し、自尊心と絶え間なく戦わなければならない、イエスのうちに自己を隠し、自分の品性と会話にこのお方が現れるようにしよう。わたしたちの罪が刺し通し、わたしたちの悲しみが重荷を負わせているお方を絶えず見上げる間、わたしたちはこのお方になるための力を得る。わたしたちの生活、態度は、わたしたちが自分の贖い主とわたしたちのためにあれほどの犠牲を払って成し遂げられた救いをどれほど高く評価しているかを証する。そしてわたしたちが喜んでイエスに自分を結びつけ、幸福なとりこにする間、わたしたちの平安は川のようにある。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1887 年 3 月 17 日）

キリストとその律法を瞑想する

「この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。」(ヨシュア 1:8)

現代ほどわたしたちが義の道を注意深く歩み、もっと熱心に祈る必要のあるときはない。キリストが地上におられたときに存在したのと同じ偏見の精神が、今神の戒めに対して存在する。であるから、もしわたしたちがサタンの敵意を起こさせることなく戒めを守ることができると考えたら、間違っている。しかし、わたしたちは決して贖い主が苦しまれた百分の一も苦しむことはない。

わたしたちはキリストがわたしたちのためにしてくださった犠牲を瞑想すべきである。このお方は、ご自分の誉れと栄光と大権を後にして、わたしたちの地球に來られ、悲しみの人となり、病を知られた。御父が天からお送りになったお方を、世が受け入れず信じなかったとは驚くべきことに思われる。このお方は救うためにこられたその人々に向かって、「あなたがたは、命を得るためにわたしのもとにこようもしない」と仰せになった(ヨハネ 5:40)。このお方は町々に入り、ご自分の使命に関心を示す者があまりにも少ないことをご覧になり、どれほど深く悲しまれたことであろうか。どの魂もその御目には尊かった。しかし時と感覚の事柄が人々の注意を引き、贖い主の功績に対して彼らの目を盲目にした。わたしたちの救い主が会われた多くの失望を考えると、このお方が悲しみの人であったことを不思議には思わない。わたしたちが、自分たちの愛する者に真理をもたらすために熱心に努力しても彼らが聞こうとしないとき、どれほど悲しく感じるであろうか。キリストはその特質がわたしたちよりもっと高く、もっと聖なるお方であるので、わたしたち以上にこの悲しみを鋭く感じられた。救い主が耐えられたことを考えるとき、わたしたちは自分の働きで失望することができるであろうか。わたしたちには人々の前にもたらすべき尊い真理があるので、命があるかぎりわたしたちの声をあげ、神の律法を犯すことは罪であることを宣布しなければならない。(サバ・オブ・ザ・タイムズ 1889.5.27)

くびきから希望へ

「自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながられてはならない。」(ガラテヤ 5:1)

この世の標準に到達しようと努めるために思いわずらいをし、心を痛めている人が多い。彼らは現世的な働きを選び、その悩みを負い、社会の習慣を取り入れて、そのため品性は傷つき、人生に疲れ、次から次におこる心配で生命力が消耗してゆく。わたしたちの主は、こうした奴隷的なくびきを捨てるように希望されている。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と言われて、主のくびきを負うように招いておられる(マタイ 11:30)。(ミストリー・オブ・ヒーリング 465)

神の律法が無視されるとき、家族と社会に最大の不幸が結果として生ずる。より良い事柄への唯一の希望は、エホバの教訓を忠実に固守することの中に見出される。不信心なフランスはかつて神の權威を拒もうと試みたがなんとという恐ろしい光景が後に続いたことであろうか!人々は神の律法を奴隷のくびきとして無視し、自分たちの自慢した自由の中で、これ以上ない暴君の支配の下に自分たちを置いたのである。無政府状態と流血がその恐ろしい日々を支配した。そのとき、秩序と統治の基礎をむしろ確かな方法は、神の律法を無効にすることであることを世に証明した。(神のむすこ娘たち 54)

キリストに従う者はだれでも神の戒めを守る。これはわたしにとって都合が良いであろうかという質問が起きる。しかし神は、あなたの都合を妨げるのでご自分の律法を守るようにとあなたに要求なさらないと都合よく思い込むなら、あなたは悲しい間違いを犯す。あなたの救いの将の代わりに別の指導者があなたを指揮している。イエスは最も厳しい誘惑に苦しみ、耐え、ついには、神の律法は不変であり、一点一画もすたることはないことを人類家族一人ひとりに明示するためにカルバリーの十字架上でご自分の命をお与えになった。十字架はその不変性の記念碑であり、このようにしてそれは全世界の前に、天使たちの前に、全人類の前に、律法は永遠の効力を及ぼすのを止めることはあり得ないことを明示している。それは神のみ座を支えており、またそれはその統治の規則である。(バプ・ル・エー 1894 年 6 月 11 日)

本物の自由を見出す

「かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。」(ローマ 8:21)

神の愛の表れには、議論、討論、雄弁の提示にまさる説得力がある。自己否定、自己犠牲、死に表されたキリストの愛、すなわちこのお方が人類の罪の下に頭をたれたときのこのお方の愛は、同情心に触れ、かたくなな心を溶かす。潔白で純潔な神の御子が罪のために苦しまれた事実、罪のないお方が罪ある者の刑罰を負われた事実、義なるお方が不義なる者の罰を耐えられた事実は心を砕く。そして、イエスが上げられるとき、罪の自覚が魂を突き刺す。キリストという無限の賜物を与えるように駆りたてた愛は、悔い改めている者に強く迫り、神にすべてを捧げさせる。……

キリストを受け入れる者は、自分のためのこのお方のへりくだり、苦しみ、死のうちにあらわされたこのお方の愛の現れによって溶かされ、征服される。彼らはこのお方を自分の身代わり、保証人として見つめ、またこのお方が、神の正義と調和し、かつその律法の誉れを立証する計画を通して、彼らの完全な救いを成し遂げて下さることを自ら誓っておられるものとして見つめる。しかしイエスのへりくだりを見る時強い感情に揺り動かされ、自分がこのお方のへりくだりと苦しみを分かち合う者にならなければならないことを理解するとき、このお方のみ足の跡に従うのをしり込みする者がいる。イエスが無条件に自己を明け渡すようにとお求めになるとき、このお方の統治に従うように、そして謙遜な服従と絶対的な信頼のうちに歩くことをお求めになるとき、彼らの性質は反逆する。傲慢な心は「いいえ、わたしたちは独立したい」と言う。しかしこれはあなたがたが持つようにとイエスが望んでおられるまさにそのことである。それは、このお方がカルバリーの十字架上で死なれたその罪の奴隷状態から、あなたが自由になることができるということである。このお方は、あなたがご自分を信じる信仰によって本当に自由になり、神の子の栄誉に満ちた自由のうちに堅く立つことができるために死なれた。

あなたの贖い主の苦しみを熟考しなさい。そうすればあなたは罪の上に抑制が置かれるのを見出す。犯された罪の一つ一つは、キリストの屈辱の再現であり、このお方の傷口を再び開くことである。(バイブル・エコー 1894 年 3 月 26 日)

何が真の独立か

「主の霊のあるところには、自由がある。」(コリント第二 3:17)

強情はしばしば独立と混同されるけれども、独立は強情ではない。G 兄弟が意見をねりあげ、かなりの確信と公の性質をもって家庭や教会内で述べる時、彼はそのときにあたかも自分の生み出すすべての議論によっても自分が正しいかのように見せる傾向がある。彼は危険のうちに、すなわち自分の執着心によって自分の目を閉じ、その良心をおかす大きな危険のうちにいる。なぜなら彼に敵の誘惑が強く臨むからである。もし彼が納得しようと思えば、彼を納得させるのに十分な光と証拠を目の前にしても、意見についての彼の自尊心は、譲るのが難しい。彼は、もし自分が間違っていることを認めなければならぬなら、それは自分の判断力と識別力の名折れになると考えている。

G 兄弟、あなたは自分の魂を失う危険が大いにある。あなたは傑出したかと思っている。あなたはときどき、自分がなおざりにされているのではないかと深く感じる。あなたは幸福な人ではない。もしあなたが、真理があまりにも厳密なために、キリストに従う多くの者がしたように、はっきりとしたみ言葉と事実につまずいて神の民を離れるなら、あなたは幸福にはならない。あなたは自分というものを連れ歩くがために、幸福な人にはなれない。あなたは正しくない。あなたは自分で自分を悩ませているのである。あなたの氣質があなたの敵なのであって、どこへ行っても、あなたは自分と共に不幸という自分の重荷をたずさえて行くのである。過ちに気づいたらすぐにそれを告白するのは名誉なことである。

神のみ働きとの関係において、あなたが誤りをみつける事柄が多くある。なぜならそうするのはあなたにとって自然だからである。そして神があなた自身に関してお示しになった光に、あなたが顔をそむけたがゆえに、あなたは識別力を速やかに失いつつあり、これまでもまさって、あらゆることにあらゆる探しをする用意ができています。あなたは独断的な確信をもって自分の意見を出し、他人の質問を自分の意見に関する個人的な悪口とみなす。真の精練された独立は、経験ある人、知恵ある人の勧告を求めることを沽券(こけん)に関わると思うようなことは決してなく、敬意を払って他の人の勧告を扱うのである。(教会への証 4 巻 239,240)

真の自由の本質

「わたしたちは女奴隷の子ではなく、自由の女の子なのである。」(ガラテヤ 4:31)

自己義はこの時代の危険であり、魂をキリストから引き離す。自分の義を信頼する者は、救いがキリストを通してどのように来るかを理解できない。彼らは罪を義と呼び、義を罪と呼ぶ。彼らは不法の邪悪さを正しく評価せず、律法の恐ろしさを理解しない。なぜなら彼らは神の道徳基準を尊重しないからである。今日、偽の改心が非常に多くある理由は神の律法の正当な評価があまりに低いからである。人々は品性を量るのに、神の義の基準の代わりに自分たちの基準を立ててきた。彼らはガラス越しにぼんやりと見、人々に聖化の誤った考えを示し、このようにして自己本位、自尊心、自己義を促進してきた。多くの人に支持されてきた聖化の教義は欺きに満ちている。なぜならそれは生来の心にへつらっているからである。しかし罪人に説教できるもっとも親切なことは、神の律法の拘束力についての真理である。信仰と行いは手に手をとって進まなければならない。なぜなら行いのない信仰はそれだけでは死んだものだからである。(信仰と行い 96,97)

イエス・キリストを信じる者はだれも神の律法への奴隷状態の下にはいない。なぜならその教訓に従うものにとって、このお方の律法は命の律法であり、死の律法ではないからである。律法の靈性を把握するすべての者、罪の探知機としてのその力を悟るすべての者は、救済的なイエス・キリストの犠牲のうちに彼らのために備えられた贖罪を受け入れないかぎり、サタン自身とまったく同様に無力な状態である。……キリストを信じる信仰によって、律法の実践への服従は可能となる。(パイブル・コメント [E. G. 初版コメント] 6 巻 1077)

わたしたちは真理の喜びの中を歩むことができる。それはわたしたちにとって奴隷のくびきとなる必要はなく、かえって、慰め、わたしたちを元気づけ、心の内に神への快い調べをかなでるようにする、大いなる喜びのよき知らせとなる。……

真理は魂の最も深い奥まったところへ届き、キリストの精神に似ていないあらゆるものを清め去らなければならない。そして、その空いたところはこのお方の品性の特質で満たされなければならない。(わたしたちの高い召し 33)

心から従うことを学ぶ

「神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して」(ローマ 6:17)

あなたは自分の特権すべてとあなたの手を通った財産すべてに対して説明責任がある。あなたは良心と神の是認を犠牲にして自分自身の快樂と利己的な満足を求めてきた。あなたは、ご自身の尊い血潮であなたを買い取られた救い主に対して責任のあるキリストの僕のように行動しない。……

あなたはキリストの僕であると公言している。それならばあなたはこのお方に進んで快く従う従順をお捧げするであろうか。あなたはキリストの十字架の兵士になるようにとあなたを召しておられるお方をどのようにしたら、一番お喜ばせできるか熱心に尋ねるであろうか。あなたは……十字架を掲げ、それを誇りとするであろうか。神に対してこれらの質問に答えなさい。あなたの行動はすべて、それらは秘密になっているとあなたが考えようと、あなたの天父には周知であり、何も隠れることなく、覆われるものは何もない。あなたの行動とそれらを引き起こす動機は、その御目に明らかである。このお方はあなたの言葉と考えをすべて完全に知っておられる。あなたの考えを支配するのはあなたの義務であり、むなしい想像に対して戦わなければならない。あなたは、自分の考えが生来のまま抑制なく走ることを許しても罪はないはずだと考えるかもしれないが、そうではない。あなたはむなしい考えにふけることについて神に対する責任がある。なぜならむなしい想像から罪の実行が生じ、思いがいつも考えていることを実際に行なうようになるからである。あなたの考えを治めなさい。そうすればあなたの行動を治めるのがもっと容易になる。あなたの考えは聖化される必要がある。パウロはコリント人に、「神の知恵に逆らって立てられたあらゆる(想像とあらゆる傲慢なこと)障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、」と書いている(コリント第二 10:5)。あなたがこの立場に来るとき、献身の働きをあなたはもっとよく理解する。……あなたの考えは純潔で、汚れなく、高められ、あなたの行動は純潔で罪のないものとなる。あなたの体は聖化と栄誉のうちに保たれる。……あなたは大きな事柄と同様にささいなことにも自己を否定するよう要求される。(教会への証 3 巻 82,83)

だれが自由に歩むか

「わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます。」(詩篇 119:45)

人々の手首に手かせをつけるのは何であろうか。それは律法への服従であろうか。否、決してそうではない。律法を守る者は自由に歩む。くびきにつながれているのは、違反者である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889年9月30日)

しばらく前、わたしたちがニューヨーク州オズエゴを通り抜けていたとき、二人のいかめしい警官と、大きな鉛製の玉を手につけている一組の男女を見た。わたしたちは、彼らがニューヨーク州の法律を守っていたという結論に達することはなかった。そうではなく、それを破っていたのであって、彼らが法律の違反者であるがゆえに自由に歩くことができなかったのである。わたしたちはニューヨーク州のすべての法律と神の律法に調和して生きようと努めてきた。そしてわたしたちは自由に歩んできた、すなわち律法のくびきの下にはいなかった。もしわたしたちがキリストの生涯に調和し、神の律法に調和して生きるなら、律法はわたしたちに有罪を宣告しない、すなわちわたしたちは律法のくびきの下にはいない。

わたしたちが追い求めることのできる二つの進路がある。一つはわたしたちを神から離れるよう導き、その王国からわたしたちを締め出す。そしてこの道にはうらやみ、争い、殺人、すべての悪い行為がある。わたしたちが従うべきもう一つの進路はそれを実行すると喜び、平安、調和、愛が見出される。愛、それはわたしたちが大切にすべきものである。そしてわたしたちが最も必要としているのはわたしたちの心の内にあるキリストの愛である。わたしたちは他のなにものにも勝ってこの尊い恩恵を欠いており、最も必要なのはイエスの胸に燃えている愛である。そしてそれが心の内にあるとき、それ自身が現れる。わたしたちは心の内にイエス・キリストの愛を持ち、それが他の人々に出て行かないようにすることができるであろうか。それはそこにあることを証することなく存在することはできない。それは言葉の中に、表情そのものの現れの中にそれ自身を表す。(ビュー・アンド・ハールド 1887年1月4日)

神の戒めは奴隷のくびきではなく、それらへの服従の中にわたしたちが恥じるものは何もない。わたしたちは、神の律法を守るよう要求されていることによって、厳しく制限されていると感じるべきではない。主はわたしたちにとって益となるものを何一つ差し控えられることはない。わたしたちはこのお方の教訓への不従順を恥じるべきである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894年10月15日)

神の道のうちに喜ぶ

「あなたのおきてがわが喜びとならなかったならば、わたしはついに悩みのうちに滅びたでしょう。」(詩篇 119:92)

聖書の宗教がその教えに従おうとする者に課す拘束に関して遺憾な様子で話す者がいる。彼らは拘束は非常に不利なものであると考えているように見える。しかしわたしたちには、神がわたしたちと敵の陣地の間に天来の防壁を建ててくださっていることを、神に心から感謝すべき理由がある。個人の最高の発達という結果をもたらすためには従わなければならないと多くの人が考える生来の心の傾向があるが、人が不可欠であると考え、神は人々が想像するような人間の祝福とはならないことをご覧になる。なぜなら品性のこれらの特性そのものの発達は、彼らを上なる住まいに適さない者とするからである。主は、かすを金から分けることができるように、人々をテストと試練の下におかれる。しかしこのお方はだれをも強いることはなさらない。このお方は足かせ、ひも、障壁で縛ることはなさらない。なぜなら彼らは不満を減らすよりは募らせるからである。……宗教は活動的な働く原則であり、人生の厳しい現実のために十分な耐久性を供給する。……宗教はそれを持っている者に絶えず品性と知性と感情を抑え、支配し、釣り合いをとる力を与える。すべての者に神の権威をもって能力と愛情を引き出し、懇願し、命じる力がある。宗教……ああ、わたしたちがみなその働きを理解するとよいのに！それはわたしたちを最も重い義務の下に置く。わたしたちが自分自身をキリストに結びつけるとき、キリストが歩まれたように歩むと厳粛に誓う。

わたしたちを暗闇からその驚くべきみ光の中に招き入れてくださったお方をたたえるのはわたしたちの特権である。……主の道は守られねばならず、このお方の道は義のうちに高められる。クリスチャンは、自分たちの態度と言葉と品性で自分たちが天の家系であることを表すべきである。わたしたちはクリスチャンであることと、あえて正しくあることを、世に対して詫びる必要は決していない。

純潔な宗教は平安、幸福、満足をもたらす。信心は現世においても来世においても益となる。(わたしたちの高い召し 333)

わたしたちの優先事項をはっきりさせる

「主よ、あなたの定め の道をわたしに教えてください。わたしは終りまでこれを守ります。わたしに知恵（悟り）を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。」（詩篇 119:33,34）

わたしたちは自分自身の心を研究し、自分自身のある基準によって自分自身の行動を正すべきであるかのように見えるかもしれない。しかしそうではない。これは改革ではなく、改悪の働きになる。働きは心のうちで始まらなくてはならない。そうすれば精神、言葉、表情、生活の行動が、変化のおきてしていることを表すようになる。キリストが豊かに注いでくださった恵みによってこのお方を知ることで、わたしたちは変えられ、真理を信じる信仰によって聖化される。内なる命は成長して強くなり、ふるまいがことごとく神のみ旨に一致するようになる。わたしたちは自分の無を感じ、神にまったく依存していることを悟るがゆえに、へりくだりが培われる。（ユース・インストラクター 1893 年 8 月 31 日）

従順は心から生じなければならない。それはキリストと共なる心の働きである。わたしたちがキリストに榮譽を帰そうと努めるとき、失望がわたしたちに来る。敵は全力を挙げて、わたしたちを正しいことからそらそうとするであろう。しかし、それだからといって、わたしたちは悪に対する戦いをあきらめてしまう必要はない。わたしたちの義務は注意深く自分の品性の弱点を守り、神の恵みによってそれらを強くしようと努めることである。神から何の力も受けずに生きている人は一人もいないし、その力がもたらされる源は最も弱い人間に開かれている。もしわたしたちが、尽きることのない力の源であられる神に近づくならば、次の約束の成就を認めるようになる、「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」（ヨハネ 16:24）。もしわたしたちが十字架を掲げ、結果は、わたしたちが守ろうとしている律法を下さった神におゆだねするなら、「主のすべての道はその契約とあかしとを守る者にはいつくしみであり、まことである」ことを見出すようになる（詩篇 25:10）。

人性においてキリストが律法を生きられたように、わたしたちも力を求めて強いお方をつかむならば、そのようにすることができる。わたしたちが自分自身では何もできないことを自覚するとき、神に誉れと栄光を帰すために知恵を受けるのである。（サイノズ・オブ・ザ・タイムズ 1897 年 3 月 4 日）

従うこと、そして愛すること

「あなたのあわれみをわたしに臨ませ、わたしを生かしてください。あなたのおきてはわが喜びだからです。」（詩篇 119:77）

あなたの不信の態度によって、神を不公平や不忠実のことが責めてはならない。あなたの疑いは、このお方のみ約束の真実性に非難を投げかける。生きた信仰のうちにイエスのみ許へ来て、このお方のみ言葉を行う者となるとき、あなたは主がいつくしみ深いお方であることを味わい知り、悟るようになる。あなたはすべての人に、「このお方の打たれた傷によって、わたしたちはいやされたのだ」と言うようになる。あなたはイエスのことを、ご自分によって神の許へ来るすべての人を最高にまで救いたいとのぞみ、救うことがおできになるお方として考え、イエスのことを語るようになる。もしあなたが自分の救い主としてキリストを信じるならば、このお方の完全な服従があなたの勘定に記載される。……

もしあなたが、自分は罪深いからと言って、イエスの許へ来ないのであれば、あなたはいつまでも罪深いままであり、自分の罪のうちに死ぬ。あなたはこのお方に絶対的な信仰をもってより頼まない限り、清めの力を感じることはできない。あなたはキリストの許へ来て完全にしてもらおうのであろうか、あるいはいつまでも不信仰のままでいて、なおも自分のみじめな状態を嘆くのであろうか。見て、生きなさい。眺めることによって、あなたはこのお方のみすがたに変えられていく。（現代の真理 1890 年 1 月 30 日）

あなたの生活において、神のすべての戒めへの服従をなしとげるのは、イエスを信じる信仰である。あなたはキリストを自分の将として受け入れ、このお方の軍に入隊しないのであろうか。あなたは暗黒の君の黒い旗じるしを後にして、インマヌエルの君の血染めの旗じるしの下で行軍しないのであろうか。あなたは自分の将の命令に従い、イエス・キリストの良き兵卒として困難に耐え、信仰の良き戦いを戦い、永遠の命をつかまないものであろうか。あなたは不法の状態から服従と愛の状態へと出てこないものであろうか。イエスを信じる人々には、神の律法に対する恨みはない。彼らはこのお方の律法を喜び、もした自分たちの主人に誉れを帰し、魂をこのお方の王国のために勝ち得ることさえできるなら、自己否定を大したことではないと考える。わたしたちは日ごとに十字架を負い、わたしたちの大切な贖い主のみ足の後に従わなければならない。（ビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 2 月 14 日）

希望をもたらす約束

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にする。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。人はもはや、おのおのその隣とその兄弟に教えて、『あなたは主を知りなさい』とは言わない。それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。」(エレミヤ 31:33,34)

〔キリストの初臨の前に〕全世界は腐敗の汚物だめになりつつあった。このように不和と墮落の成分をもったかたまりの中に、新しいパンだねが投じられるというただ一つの希望が人類にあった。そこには、人類に新しい生命力がもたらされ、神の知識が世に回復されるはずであった。キリストは、この知識を回復するためにおいでになった。彼は、神を知っていると公言している人々が、神を誤り伝えているその偽りの教えをとりのぞくためにおいでになった。彼は、神の律法の性格を明らかにし、ご自身の品性の中に聖潔の美しさを表わすためにおいでになった。

キリストは、蓄積された永遠の愛をもって、この世においでになった。彼は、神の律法につけ加えられて、これを煩わしいものにしていたこまかい規則を片づけて、神の律法は愛の律法であり、神の恩恵の表現であることを示された。彼はこの律法の原則に従うことの中に、人類の幸福があり、同時にそれは人類社会の基礎となり骨組みとなって、安定をもたらすものであることを示されたのである。

神の律法は、専横な要求をするどころか、かえってそれは、人類を守るための囲いとして、また楯として与えられているのである。律法の原則をうけ入れる者はだれでも悪から守られる。神に対する忠誠心の中には、人に対する忠誠心が含まれている。このように律法はひとりびとりの人間の権利と個性を擁護する。それは、上位の者の圧迫と下位の者の不服従を防ぐ。律法は、現世のためにも来世のためにも人の幸福を保証する。律法は、これに従う者にとって永遠の生命の保証である。なぜならそれは永遠に保つ原則の表現であるからである。(教育 75,76)

義は、神の偉大な標準、すなわち十誡によってのみ、定義づけることができる。品性を量る規則は他にない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1895年1月20日)

新しい従順な心

「わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、と主が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。」（ヘブル 8:10）

もし、わたしたちが戒めの遵守者になることが可能でないとすれば、なぜ〔神は〕ご自分の十誡への服従を、ご自分を愛する証拠となさるのであるのか。（バィブル・コメンタリ〔E・G・ホットコット〕I 巻 1092）

イエス・キリストを通して、知恵と恵みと力を得る道が開かれた。このお方は万事における模範であられる。真理のメッセージを奉じる人々が、ごくはじめに学ぶべき教訓は、キリストと結合し、このお方の恵みの力を魂に受けて、品性のすべてのかすを溶かし去り、思いでさえもとりにすることである。これは、キリストがご自分の律法を心に印象づけ、そこに記すことができるために、心を服従させることを通してなされなければならない。これはすべての魂のために成し遂げられなければならない働きである。それによって真理を愛する人がみな、聖化し、精錬し、高尚にする真理の力を、品性の上に、精神に、言葉に、そして行動にあらわすのである。（南アフリカへの証 28）

聖霊の働きの必要性がすべての人によってはっきり理解されるべきである。全存在を新たにし聖化するのを働きとするこの御霊がキリストの代表として受け入れられ、大事にされないかぎり、人間に委ねられてきた重大な真理は、思いに及ばずその力を失う。真理の知識を持つだけでは十分ではない。わたしたちは自分たちの意志を神のみ旨に調和させつつ、愛のうちに歩み、働くべきである。このようにする人々について主は次のように宣言しておられる、「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう」（ヘブル 8:10）。神は、この変化の働きにおいて、力強い全能の執行者であられる。ご自分の聖霊によって、このお方はご自分の律法を心に記される。

こうして神と人との間の神聖な関係が新たにされる。〔ヘブル 8:10 引用〕。「人がわたしのすがたを表すことができるために、惜しみなく与えないような属性はわたしの性質にない。」わたしたちが自分たちのうちに神に働いていたとき、罪を抱くことはない。清めの炉で、すべてのかすは燃え尽きる。（レビュー・アンド・ヘラルド 1902 年 6 月 10 日）

聖潔に至る実を結ぶために学ぶ

「あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。」(ローマ 6:20～22)

世界の救いの唯一の望みは、イエス・キリストだと信じると公言する人々が、誤謬の闇の中にいる人々にこのお方を知らせるために、あまりに何もしないのを見て、全宇宙はどのように思うであろうか。すべての人の判決が永遠に下るとき、恩恵期間の間に自分たちの仲間に対してこれほど偉大な救いをなおざりにする人々を待ちうけている運命について、警告してこなかった人々の罪は、どれほど巨大に見えることであろう。そのとき、クリスチャンだと公言する人々ができたはずでありながら、しなかったことについて、どんな啓示がなされることであろう。彼らは自分たちの道具を通して、神と共に働く共労者になっていれば救えたはずの魂を、どれほどたくさん見ることであろう。神を愛すると公言する多くの人々は、氷のような雰囲気の中に閉じ込められ、キリストの愛が一度も彼らの魂を溶かしたことがないかのようである。(レビュー・アソシエイト・ハルッド 1896 年 7 月 21 日)

何であれ愛情を分裂させ、魂から神への最高の愛を取り去るものは、一種の偶像だと考えて間違いない。わたしたちの肉の心は自分たちの偶像にしがみつki、それを持ち歩こうとする。しかし、わたしたちはそれらを捨てない限り、前進することはできない。なぜなら、それらはわたしたちを神から引き離すからである。教会の偉大なる頭は、ご自分の民を世から選び出し、彼らに分離するよう要求される。このお方はご自分の戒めの精神が彼らをご自分に引き寄せ、世の要素から引き離すようにと意図しておられる。神を愛し、このお方の戒めを守るとは、世の娯楽と友情を愛することとはほど遠い。(教会への証 1 巻 289)

わたしたちは目覚めなければならない。そしてイエスのうちにあるがままの真理を理解しなければならない。わたしたちは不愉快な働きを避けようとしないうちに、神のみ言葉に勧告を求める必要がある。自分たちが神と共に働く共労者であることを悟るとき、半分無関心にみ約束を語ることはない。かえってそれらはわたしたちの心のうちに燃え、わたしたちの唇に火をともしものである。(ザン・ワーク 56)

石の心が溶かされる

「そしてわたしは彼らに一つの心を与え、彼らのうちに新しい霊を授け、彼らの肉から石の心を取り去って、肉の心を与える。これは彼らがわたしの定めに進み、わたしのおきてを守って行い、そして彼らがわたしの民となり、わたしは彼らの神となるためである。」(エゼキエル 11:19,20)

あなたは自分の心がかたくなに見えるからといって失望してはならない。すべての障害、すべての内なる敵は、ただあなたがもつとキリストを必要とするだけである。このお方は石の心を取り除き、あなたに肉の心を与えるために来られた。あなたの特別な欠点に勝利するための特別な恵みを求めて、このお方を仰ぎなさい。誘惑に攻められるとき、断固として邪悪な促しに抵抗しなさい。自分自身の魂に次のように言いなさい。「わたしはいかにしてわたしの贖い主を辱めることができよう。わたしは自らをキリストにお捧げしたのである。サタンのお働きをするわけにはいかない。」すべての偶像を犠牲にし、すべての大事にしている罪を取り除くための助けを求めて、愛する救い主に叫びなさい。信仰の目で御父の前に立ち、あなたのために嘆願しておられるときに、ご自分の傷ついたみ手を差し出しておられるイエスを見なさい。あなたの尊い救い主を通して、あなたに力がもたらされることを信じなさい。……

もしわたしたちが自分の思いをもつとキリストと天の世界を考えるようにするなら、主の闘いを戦う時の強力な励みと支持を見出す。わたしたちが、すぐにも自分たちの家郷となるより良い地の栄光を考えると、世の誇りと愛はその力を失う。キリストの麗しさのほか、すべての地上の魅力はあまりにも価値がないように見える。(きよめられた生涯 90,91)

十誡の「せよ」、「してはならない」というのは、もしわたしたちが宇宙を統治している律法に従順を捧げるなら、わたしたちに保証された十の約束である。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」(ヨハネ 14:15) ……

シナイの山上で、キリストによって語られた十の聖なる規則は、神のご品性の啓示であり、このお方が全人類の嗣業に対する統治権を持っておられるという事実を世に知らしめるものであった。人間に提示しうる最大の愛の十の規則をもつこの律法は、約束のうちに天から語りかける神のみ声である。「こうしなさい、そうすればサタンの統治と支配下に陥ることはない。」律法には、たとえそう見えたとしても、否定的なところはない。それは「行なって、生きよ」というものである。(パイブル・コメント [E . G . 叔父コメント] 1 巻 1105)

新しい心とは変化した生活である

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わが定めに歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。」(エゼキエル 36:26,27)

神のみ言葉の中に記録されている最も熱心な祈りの一つは、ダビデが次のように祈った時の祈りである、「神よ、わたしのために清い心をつく〔つ〕……てください」(詩篇 51:10)。そのような祈りに対する神の応答はいつも、わたしは新しい心をあなたがたに与える、である。この働きは有限な人間はだれもできない。男女は、まず真のクリスチャン経験をこの上なく熱心に求めることから始めなければならない。彼らは聖霊の創造の力を感じなければならない。彼らは天の恵みによって柔らかくやさしく保たれた新しい心を受けなければならない。利己的な精神は魂から清められなければならない。彼らは熱心に心のへりくだりをもって働き、各々導きと励ましを求めてイエスを仰ぐのである。そのとき、建物は、互いにぴったりと合い、主にある聖なる宮へと成長していく。

青年は特にこの「新しい心」という言葉につまずく。彼らはそれが何を意味するのかわからない。彼らは自分たちの感情に何か特別な変化が起こることを期待する。これを彼らは改心と呼ぶ。この過ちをめぐって、「あなたは新しく生れなければならない」という表現を理解せずに(ヨハネ 3:7)、何千もの人々がつまづき、破滅した。

サタンは人々が感情の高揚を感じたから、自分たちは改心したと思わせる。しかし、彼らの経験は変わらない。彼らの行動は以前と同じである。彼らの生活は少しも良い実を見せない。彼らはしばしば長く祈り、自分たちはこれこれこういう時にこんな気持ちになったということをいつも言及している。しかし、彼らは新しい生活を送らない。彼らは欺かれている。彼らの経験は感情より深くならない。彼らは砂の上に建てており、逆境の風が吹くとその家は一掃されてしまう。……

イエスが新しい心について語られるとき、このお方は思い、生活、そして存在全体を意味しておられる。心の変化があるということは、世から愛情をひきあげ、それらをキリストへ結びつけるということである。新しい心を持つということは、新しい思い、新しい目的、新しい動機を持つということである。新しい心のしるしは何であろうかー変化した生活である。(わたしたちの高い召し 159)

自由にされる：ある一例

「また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ 8:32)

真理はそれを愛し、それを通して聖化される者を自由にする。(わたしたちの高い召し 33)

わが兄弟よ、わたしはあなたにお願いする、自由な人となきなさい。……

世に必要とされている男女、すなわち力と大いなる栄光をもって主がまもなく来られるというメッセージを宣布する男女に責任が負わされている。この警告が宣布されなければならない。この時代のための真理を知っている人々は、それを持って出ていき、まだ知らない人々に伝えなければならない。彼らは偉大な伝道者キリストと協力しなければならない。このお方のみ働きは人々を神に引き寄せることであった。このお方はご自分を隠すことに同意なさり、ご自分の神性を人性の衣の下に隠された。

わたしは……自分たちの信仰を失いかけ、また自分たちの初めの愛を失いかけている人々にお願いする。信仰にしっかりと確立されていさえすれば、携わることのできるはずのみ言葉のご用や尊い伝道の働きができないようにおびやかす堕落させるような理論の感化力から回復したらすぐに、そこを離れなさい。そして、なおざりにされていた伝道地で神のみ働きに取りかかりなさい。行動は、言葉よりも、大きく語る。……

多くの人々の信仰は、自分の心を神のみ前にへりくだらせ、次のキリストの任務を果たしに出ていくときによみがえる、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ 16:15)。(パトル・クリーク・レターズ 114)

ああ、わたしたちの兄弟姉妹が真理の価値を正しくはかることができれば! ああ、彼らがそれによって聖化されるならば。ああ、彼らがこの真理を他の人々に伝えるという責任が自分たちにあることを自覚できれば。しかし、彼らは真理に生きる重要性、すなわちキリストのみ言葉を行う者になる重要性を感じない。多くの人々は自己満足している。彼らはキリストの弟子たちを活気づけるべき伝道精神に満たされていない。もし彼らが他の人々のために魂の苦しみを持つということがどういう意味かを知っているなら、神の御使たちは彼らを通して真理の知識を伝えるために働くことであろう。彼らは真理を知って、真理は彼らを自由にするであろう。金銭が……新しい伝道地を開くの用に用いられるであろう。(教会への証 8 巻 151,152)

本当に自由

「もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。」(ヨハネ 8:36)

神の律法の判決の力は、わたしたちがすることにばかりではなく、しないことにまで及ぶ。わたしたちは神の要求なさることをせずに省くことにおいて、自らを正当化してはならない。わたしたちは悪をやめるばかりでなく、善を行うことを学ばなければならない。(セクレット・メッセージ 1 巻 220)

全身に及ぶキリストの御愛が人を活気づける力となるのである。それはすべての重要な部分すなわち脳や心臓や神経にやす力をもって触れる。それによって人間の最高のエネルギーが覚せいされ、活動するようになる。これは生命力を破壊するような罪と悲しみ、憂慮や心労から人間を解放する。そして平静さと落ち着きを与える。またそれはこの世の何ものも破壊することのできない喜び、すなわち聖霊による喜び、健康的なまた生命を与える喜びを心の中に植えつける。(ミストリー・オブ・ヒーリング 85)

しっかりした力のある人間が必要とされている。障害物がすべて取り除かれ、前途が平坦になるまで待っていない人、落胆した働き人を発らつとした元気をもって鼓舞する人、その心はクリスチャンの愛であたたかく、主の働きをするにふさわしいじょうぶな手の持ち主、こう言うたぐいの人を要するわけである。伝道に従事している人の中には弱い、無気力な、勇気のない、失望しやすい人がいて、奮発心がなく、なんでもやろうという熱意を起す精神と力に欠けて、積極的な性格がない。成功したいと思う者は勇敢で希望にみちていなければならない。消極的な長所だけではなく、積極的な長所も養わなければならない。怒りをそらす柔らかない答を与えると同時に悪に抵抗する英雄的勇氣も持っていなければならない。万事に耐える愛を持つとともに、その感化を決定的な力とする強い性格が必要である。……

この柔弱、優柔不断、無能力に勝利しなければならない。真のクリスチャン的性格には、逆境におかれても変ったり、負けたりすることのない不屈なものがある。わたしたちの精神には背骨がなくてはならない、すなわち、おせじ、わいろ、脅迫などをもってすることのできぬ高潔さが必要である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 483,484)

正しいことをなす奉仕

「罪から解放され、義の僕となった」(ローマ 6:18)

わたしがはじめに魂のための重荷を感じたのは、14 歳を少し過ぎたときであった。しかし、ああ、わたしは自分の若い仲間たちが正しい道に導かれるために何と言えども良いかを知るために、どれほど神に嘆願したことであろう。わたしは自分が成功しなければならないと感じた。わたしは主人であるお方のために働かなくてはならないから、神が知恵を下さるはずだと感じた。わたしが 16 歳のとき、公に活動的な働きを始めた。わたしは自分の働きに裁きにおいて直面しなければならないこと、またわたしがどのようなやり方でこの働きをしたかが天の書に記されることを感じた。わたしは神と格闘し、このお方がわたしに知恵を下さるよう、このお方の働きがわたしの手のうちで傷つけられるのではなく、受け入れられるものとなるようにと魂を悩ませた。40 年間以上、わたしは自分の主人であられるお方のために活動的な働きに従事してきたが、今日、わたしは他の人々に真理を提示するための知恵を神に求める必要を、16 歳の時に感じたのとまったく同じように感じる。そしてわたしが民に語ろうとするたびに、いつも自分がなすべきほど完全に働きをなすことができなかったことを深く感じる。わたしはより多くの光を反射させていないがゆえに深くへりくだり、わたしがより大きな完全さをもってこのお方の働きをなすことができるように、より多くの恵みとより多くの知恵を与えて下さるようと神に嘆願する。……

現代の真理を受け入れるすべての人にとって重要不可欠なことは、品性の完全と魂をキリストに勝ち取る際の徹底さを目指すことである。自分の働きにおいて、前進し、向上することを決心しなさい。そうすればあなたは絶えず進歩を遂げるようになる。なぜなら、この光を受けてきた人々は、前進するにつれ、自分たちがもっとキリストの霊を自分自身の生活と品性にもたらさなければならないこと、さもなければ彼らはそれを他の人々の生活にもたらすことができないと感じるからである。そしてあなたは自分の友人たちとの会話の中で自分の言葉が彼らにとって祝福となるようにすべての機会を活用することができる。あなたが真理を彼らに興味を起こさせるような方法で提示できるように、あなたの思いに仕事をさせなさい。あなたが彼らの前に示すことのできる聖句の最も興味深い部分をとらえ、まっすぐに要点を話し、彼らの注意をとらえるように努め、彼らを主の方法によって教えなさい。(ビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 7 月 26 日)

気をそらすものをどう対処するか

「兄弟たちよ。あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。」(ガラテヤ 5:13)

わたしたちは最も厳粛な時代に生存している。サタンと悪天使たちは徒党を組んで、強力な力でわたしたちに敵対している。世は彼らを助けるために彼らの味方になっている。そしてもっとも嘆かわしい事実は、重要で厳粛な真理を信じると主張している自称安息日遵守者が、自分たちの力を闇の権力の感化力と結託させて、気をそらせ、妨げ、あるいは〔キリストが〕ご自分の選ばれた器に築き上げるように要求されたものを壊していることである。ある者は、直接的に壊しはしないが、間接的に壊す。彼らは無関心にながめ、疑いや疑惑や恐れを口にし、疑い深いトマスよりも大きな証拠を必要としている。彼らは熱心さをもって働くために自分の手をかけることも、また築き上げるために自分たちの精力を働かせることも、しようとし、しないのである。彼らの感化力は神の民の間における前進と改革の働きを遅らせるものとして記録されている。

御使は言った、「キリストと共に集めない者は、散らす者である」。中立などという立場はない。すべての人は感化力を持っており、その感化力は是か非に物を言うのである。(原稿別ス5 巻 61,62)

さて、わたしたちは何が罪であるかを知りたいのである—それは神の律法の違反である。これが聖書の中で与えられている唯一の定義である。であるから、わたしたちは神に導かれていると主張しながら、このお方とこのお方の律法から正反対に離れていく人々は聖書を調べないことが分かる。しかし、主はご自分の民を導いておられる。……

サタンが自分はキリストだと主張しながら、あなたの目の前で奇跡を働く時が近づいている。そしてもしあなたの足がしっかりと神の真理の上に固まっていないなら、そのとき、あなたは自分の基礎から導きだされてしまう。……

あなたは失望しても、心を弱くしてもならない。ヨシュアに与えられたみ言葉は、「強く、また雄々しくあれ」であつた(ヨシュア 1:9)。なぜなら、あなたの前には大きな働きがあるからである。そして彼の成功は、彼の神への服従にかかっていた。誘惑者があなたの気をそらすために来るとき、もしあなたの思いが聖句で満ちているなら、あなたは、わたしは主に対してこの悪と罪を行うことはできない、と言うのである。(ビュー・アソド・ヘラルド 1888年4月3日)

わたしたちはどちらの鏡を見ているか？

「完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行く人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」(ヤコブ 1:25)

デュッセルドルフ〔ドイツ〕で、わたしたちは〔鉄道の〕車両を変え、その駅で二時間待たなければならなかった。ここでわたしたちは人間の性質を研究する機会を得た。婦人たちがやって来て、自分たちの外套を着替え、あらゆる角度から調べて、自分たちの衣服が問題ないかどうかを見た。それから、自分たちの顔にさらに粉をはたかなければならなかった。人の目から見て最高に見えるようにとの目的のため、自分たちの衣服を自分たちの満足いくように整えるために、長い間、鏡の前にとどまった。わたしは神の律法、すなわち罪人が自分の品性の欠点を発見するために見るべき大いなる道徳的な鏡について考えた。もし多くの人々が鏡を使って自分たちの外見を勤勉に厳しく調べるように、すべての人が品性のすべての欠点を正し、改革する目的で、神の律法―品性の道徳的標準―を研究したなら、彼らのうちになんという確かな変化が起こることであろう。「おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう」(ヤコブ 1:23,24)。……

神の道徳的な鏡、すなわちこのお方の律法を見るとき、品性に欠点がある者として自分を見る人々が多くいる。しかし、彼らはあまりにも「あなたがしなければならぬことは、信じることです。ただイエスがすべてをしてくださったことを信じさえすれば、あなたのすることは何もありません」というのを聞いてきたために、あえて鏡を見てみた後で、自分の欠点をみな持ったまま、「イエスがそれは全部してくださった」と口にしながら、すぐさまそこから離れてしまう。これらの人々はヤコブが示した比喻―自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう人―によって表されている。……信仰と行いは、……世俗、誇り、虚無の潮流に逆らって用いられなければならない二つのオールである。そして、もしこれらが用いられなければ、小舟は潮流と共に下方へ向かって流されてしまう。……神はわたしたちが内なる飾りを備えるために、わたしたちが外面を整えるときと同じくらい注意深く心を整えるのを助けて下さる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887年 10月 11日)

型（模範）に焦点を当てる

「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」（詩篇 119:18）

わたしたちは自分たちの前に絶えず型であるお方をおき、わたしたちを罪の奴隷状態から贖うために払われた無限の犠牲を熟考しなければならない。もしわたしたちが鏡を見るときに、自ら責めを見出すならば、あえてさらに不法を犯すのではなく、方向転換し、小羊の血で自分たちの品性の衣がしみのないものとなるように洗おう。ダビデがしたように、叫ぼう、「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」（詩篇 119:18）。人類の祝福となるようにと神が時間と資金を委ねてこられたが、それらの賜物を自分自身や子供たちのために不必要に浪費してきた人々は、神の裁判所にて恐るべき会計報告書に直面することになる。……

世の感化力に屈してきた安息日遵守者の中の人々はテストされることになる。終わりの時代の危険がわたしたちに迫っている。そして多くの人々が予期していなかった試練が、神の民だと公言する人々の前にある。彼らの信仰の真偽が試される。多くの人々は、誇りと虚無と娯楽の追及において世俗と結合しながら、なお自分たちはクリスチャンでいられるとうぬぼれてきた。しかし、彼らを神から引き離し、世の子としたのはそのような放縦であった。キリストはわたしたちにそのような模範は残されなかった。ただ自分を否定する人々、謹厳と謙遜と聖潔の生涯を送る人々がイエスに真に従う人々である。そしてそのような人々は、世を愛する人々の社会を楽しむことができない。

多くの人々は、未信者に感化力を及ぼすために、世のように装うが、彼らはこの点において悲しい間違いを犯している。もし彼らが真の救う感化力を持ちたいならば、自分たちの告白通りに生き、自分たちの信仰をその義なる行為によって示し、クリスチャンと世俗の人々の区別をはっきりさせなさい。言葉、衣服、行動が、神のために語るべきである。そのとき聖なる感化力が彼らの周囲にいるすべての人に降り注ぎ、未信者でさえ、彼らがイエスと共にいたことを知るようになる。……彼らに自分たちの告白通りに生き、それによって謙遜な型であられるお方を模倣させなさい。（教会への証 4 巻 632～634）

自由な律法によって裁かれる

「だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。」
(ヤコブ 2:12)

天への道は、イエス・キリストを通してである。このお方は世にあらわれるすべての人を照らす光であられる。このお方はわたしたちに最も尊い真理を与えて下さった。しかし、自分たちにとって、知り、実践することが重要不可欠であることを正しく評価していない人々が多くいる。神の民は、重要でない脇の問題に貴重な時間を割かないようにしましょう。その代わりにキリストと真理への愛が彼らの心を一致と愛のうちに結びつけていること、またこれが彼らを神の戒めへの服従に導いていることを表すために奮闘しよう。

主は将来の生涯におけるわたしたちの幸福のために、あらゆる備えをして下さった。しかし、このお方はこれらの計画に関して何の啓示もしてこられなかった。だから、わたしたちはそれらについて思いめぐらせるべきではない。……

命に関わる重要性をもった事柄が神のみ言葉の中ではっきりと表されている。これらの主題は、わたしたちの最も深い思想の価値がある。しかし、わたしたちは神が沈黙してこられた事柄に関して、探り調べるべきではない。神の民が理性的に考えられるよう、神が助けて下さるように。わたしたちに確信のない事柄について疑問が起こったときには、「聖書は何と言っているか」と尋ねるべきである。

キリストはわたしたちの救いに重要不可欠な真理を何も控えてはおられない。明らかにされていることはわたしたちとわたしたちの子らのためであるが、わたしたちは明らかにされていないことに関して、自分たちの想像力によって教理を立案してはならない。何度も繰り返し、これらの重要でない主題が議論されてきたが、これらの議論がかつて少しでも役に立ったことはなかった。わたしたちは、注意を奪われ、自分たちに与えられたメッセージの宣布からそらされるのを許してはならない。……わたしたちは重要でない主題に関して議論に入るようにと命じられてはいない。わたしたちの働きは思いを神の律法の偉大な原則に導くことである。

裁きの時に問われる質問はただ一つ、「彼らはわたしの戒めに従順であったか」である。重要でない問題をめぐる些細な争いや論争は、わたしたちの民が必要としていない教育である。その代わりに彼らに次の祈りに応えさせなさい、「みんなの者が一つとなるためであります。……それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」(ヨハネ 17:21)。(西インドメッセンジャー 1912 年 7 月 1 日)

「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (II)」

Reformation Herald Publishing Association

3. 時間制限がある

忠実で真の証人のラオデキヤへの勧告（黙示録 3:18-20）は、まだ希望があるうちに、状況を救済するために与えられています。ホワイ特姉妹は、次のように記しています。

「A・T・ジョーンズと E・J・ワゴナーによってわたしたちに与えられたメッセージは神からラオデキヤ教会へのメッセージである。そして、真理を信じると公言していながら、他の人々に神から与えられた光線を反射しない者は災いである。」（原稿 24 巻，1892 年）

「まだ〔生ぬるい者たちの〕状態を救済するチャンスがあり、ラオデキヤのメッセージは励ましに満ちている。なぜなら、背信した教会はまだ信仰と愛である金を買うことができ、自分たちの裸の恥があらわれないように、キリストの義である白い衣を持つことができるからである。」（ビュー・アンド・ヘラルド 1894 年 8 月 28 日）

「兄弟たちよ、あなた自身のともし火は、改革のための決定的な努力をなさないかぎり、確実にゆらめき、弱くなって、ついには闇のうちに消えてしまう。『あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい』。提示される機会はいまや少ないであろう。もしこの恵みと悔い改めの時を活用せずに逃してしまうなら、次の警告が与えられている。『わたしはすみやかにあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう』

……しかし、このお方の御霊はいつまでも争うことはない。このお方の忍耐が待つのはあとわずかである。」(教会への証 5 巻 612 (1889 年))

「人の目の前に目隠しを置いたり、その心をかたくなにしたりするのは、神ではない。それは神がご自分の民の過ちを正し、彼らを安全な道に導くために送られたにもかかわらず、彼らが受け入れることを拒む光であって、これこそ、彼らの思いを盲目にし、彼らの心をかたくなにするのである。彼らは光に背を向け、頑固に自分自身の点火した火花のうちを歩むことを選ぶ。そして、主ははっきりと、彼らは悲しみのうちに横たわることになる」と宣言なさる。主が送られる光の一筋が認められないとき、霊的な知覚力が部分的に麻痺し、第二の光の現れは、ますますはっきり識別できなくなる。このように闇は絶えず増し加わり、ついに魂にとって夜となる。キリストは『その暗さはどんなであろう!』と言われた。……

神から離れることにおいて、光のうちを歩むのを拒むことにおいて、自分たちの不信と神のメッセージの拒絶の罪を告白するのを拒むことにおいて、イスラエルの子らの歴史が、現代のための真理を信じる」と主張する民の経験となることを、主がお許しにならないように。なぜなら、彼らが警告と勧告を目の前にしながら、イスラエルの子らがしたようにするなら、この終わりの時代にもイスラエルの子らの上に臨んだのと同じ結果が続くからである。……神はご自分のご計画を実行するのに、急いでおられない。なぜなら、このお方はとこしえからとこしえだからである。このお方は光を与え、それを受けてほしいと思う人々にもっと十分にご自分の真理を開いてくださる。それは、彼らが今度は警告と励ましの言葉をもって、それらを他の人々に与えることができるためである。もし名声と知性の人がこれを行うことを拒むなら、主は他の器をお選びになり、より劣っていると思われる人々に誉れをお与えになる。」(ビュー・アンド・ワールド 1890 年 10 月 21 日)

「主は、わたしたちの背信を見てこられた。そして、このお方はご自分の民に対して論争がある。……主のご不興は、このお方の民に対するものである。彼らの現在の状態では、キリストのご品性を表すことは不可能である。……彼らはメッセージを受けることを拒んできた。彼らは自分たちの行動が譴責

されるために、光に来ることを拒んできた。……悔い改めない者に対して次のように言われる時が来る。『エフライムは偶像に結びつらなった。そのなすにまかせよ。』教会は自分がどこで落ちたかを悟るであろうか。……教会員が神の御前に、二心で生気のない行動ではなく、熱心に自らをへりくだらせるなら、主は彼らを受け入れてくださる。しかし、このお方は次のように宣言なさる、『悔い改めなければ、わたしはすみやかにあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう』。この警告はどれほど長く拒まれることであろうか。教会は実を結ばない木のようなものである……そこに神聖な探索によって葉のほか何も見出すことができない。わたしたちの教会に対する厳粛な思考である！実に、すべての個々人に対して厳粛である！神の忍耐と寛容の驚くべきことよ。しかし、『悔い改めなければ』それは尽きてしまう。教会、わたしたちの機関は、『自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もない』と言っている一方で、弱さから弱さへ、冷たい形式主義から無感覚へと進んでいく。』（ビュー・アンド・ハルド（追加）1890年12月23日）

「『そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはすみやかにあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう。』これらの言葉は教会にどのような効果があるだろうか。神の民だと公言する人々は、次の言葉の重要性を理解するであろうか。『わたしはすみやかに〔あなたがくつろいで不注意になり、霊的な怠慢で満ちている時に〕あなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう。』警告がもはや神の民になされなくなるとき、神の御霊の優しい訓告が沈黙するとき、天の照明であろうそくがもはや彼らの行く道を照らさないとき、彼らは自分自身の火を灯すがままに、そして自分自身の点火した火花の中を歩むがままにまかされる。』（ビュー・アンド・ハルド 1893年4月4日（括弧内の言葉は原文にあるもの））

前述の引用より、わたしたちはキリストとキリストの義の提示が、教会に与えられた場所へと導いたことがわかります。：

(1) 自分の運命を決定する短い時間

(2) 次のいずれかから決定する機会：

(a) 真のリバイバルと改革もしくは

(b) 燭台を取り除かれる

もし教会が自分に送られた特別な助けを受け入れるならば、差し迫った教派の災いを回避するのに遅すぎることはなかったはずでした。しかし、もし教会が自分に与えられたリバイバルと改革の機会を活用しないならば、神の警告と訓告が止むことによって、燭台が取り除かれたことが知らされるのでした。

「III- 教会が自分の運命を決定する」に続きます。

を害^{がい}するようなことをしてしまった人^{ひと}に対するうわ^{たい}さ話^{ばなし}によって、現^{あらわ}れるかも知れません。そのために神^{かみ}はわたしたちの心^{こころ}に怒^{いか}りが生^{しょう}じるのを許^{ゆる}すことに対^{たい}して警^{けい}告^{こく}しておられるのです。

イザヤ 9:6 では、イエスは「平和^{へいわ}の君^{きみ}」として述べられています。このお方は平和^{へいわ}の創始^{そうし}者^{しや}です。そしてこのお方がもたらす平和^{へいわ}は大人^{おとな}のためばかりではありません。このお方は忠実^{ちゅうじつ}な人々^{ひとびと}に、「あなたの子^こらはみな主^{しゅ}に教^{おしえ}をうけ、あなたの子^こらは大^{おお}いに栄^{さか}える（あなたの子^こらの平和^{へいわ}は大^{おお}なるものとなる）」と約束^{やくそく}なさいました（イザヤ 54:13）。

しかし、それだけではありません。イエスがわたしたちに求めておられるのは、自分自身^{じぶん}が平和^{へいわ}な人になるばかりでなく、実^{じつ}際^{さい}に平和^{へいわ}を「つくり出^だす人^{ひと}」になることです。ほとんどの子^こ供^{ども}はものを作るのが好き^すです。あなたはパンやクッキーを作^{つく}ったり、あるいは芸術^{げいじゆつ}品^{ひん}や砂^{すな}のお城^{しろ}を作^{つく}ったりするのが、好き^すかもしれませんね。神^{かみ}は人間^{にんげん}の心^{こころ}にものをつくる—それらを創^{そう}造^{ぞう}する—願^{がん}望^{ぼう}をお与^{あた}えになりました。なぜなら、わたしたちは創^{そう}造^{ぞう}主^{ぬし}自^じ身^{しん}のかたちにかたどって造^{つく}られているからです。ですから、このお方が平和^{へいわ}を作り出^だす人々^{ひとびと}に祝福^{しゅくふく}を宣^{せん}言^{げん}なさるとき、わたしたちが友^{とも}達^{だち}や家^か族^{ぞく}や隣^{りん}人^{じん}たちも互^{たが}いに仲^{なか}良^よくやっ^やっていけるようにできることは何^{なん}でもする心^{こころ}をも与^{あた}えてくださっているのです。

「こういうわけで、平和^{へいわ}に役^{やく}立^だつことや、互^{たがい}の徳^{とく}を高^{たか}めることを、追^おい求^{もと}めようではないか」（ローマ 14:19）。互^{たがい}の徳^{とく}を高^{たか}めるというのは、その人^{ひと}を霊^{れい}的^{てき}に建^たてるということ、ちょうどあなたが建^た物^{ぶつ}を作るのにレンガを積^つみ上^あげていくようなものです。そしてそのような親^{しん}切^{せつ}を描^{えが}く絵^えは、人^{ひと}が見^みることのできるも^もっとうれ^{うれ}しい光^{こう}景^{けい}の一つ^{ひとつ}なのです。

ココナッツとキャロブの生チョコ風

〔材料〕

ココナッツパウダー	1/2 カップ
キャロブパウダー	大さじ 3
粗糖	大さじ 1
豆乳	大さじ 3

〔作り方〕

上記を器に入れて、良く混ぜます。

分量は目安ですので、お好みで変えてみてください。

そのまま食べたり、パンに塗ったり、凍らせてもおいしく召し上がれます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



平和な絵を描く

平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。(マタイ 5:9)

人が目にするもっとも悲しい光景の一つは、子供が戦争の損害のただ中で苦しんでいる光景です。人が戦争に行くときとみんな、とくに人類家族の中でもっとも若く、もっとも弱い人々が損害をこうむります。あなたはそのような光景を目にしたことがありますか？それを見ると、助けられることがあれば何でもしたいという気持ちになります。ときには、遠い場所での多くの苦しみを取り除くのは大変難しく、単に祈ることしかできません。しかし、わたしたちが世界をよりよい場所とするためにできることの一つは、できるかぎり自分の周りの人々との調和を、ほんのすこしでも壊さないようにすることです。戦争は、怒り、すなわち人の心の状態から始まります。聖書は、わたしたちに、「すべての人と相和し、また、自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。気をつけて、神の恵みからもれることがないように、また、苦い根がはえ出て、あなたがたを悩まし、それによって多くの人が汚されることのないようにしなさい」と命じています(ヘブル 12:14, 15)。

あなたは何か苦い根か知っていますか？根とは地表の下で育つものがあり、それが植物全体に栄養を与えます。しばしば、植物は美しい葉を持っていますが、根の状態が健康でなければ、植物全体がたちまちしぼんで、すぐに枯れてしまいます。

同様に、もしだれか他の人に対して怒りをおぼえることを自分に許してしまうなら、その人の心の中に苦い根が成長します。それは何か小さいつまらないことをめぐって起こるかもしれませんが。この根はそれからますます大きく成長していき、ついには表面に現れて、他の人々に醜い方法でまきちらすようになります。それはだれか—もしかしたら知らずにあるいは偶然に—気分